

カルシュの足跡を追って

◇15◇

若松 秀俊

エンメラとの恋愛時代 マンに師事し、生涯の友 ドイツ語の主語の用法かに、シュタイナーの言葉 となった長屋書一には、らいうと、かなりかしてをフリッツが手書きでま ドイツ語を個人的に教え まっている。小説『湖畔とめて贈ったそうであ たことよって一層親密の夕映え』で描いたほどに、互いに親しい仲間となさを増した。

長屋は後に東京大学教授でも終生、姓を用いて

このすでに、シュタイナーの人間智学に彼の関心は傾き、そのような仲間との交流を深めていた。

縁の糸

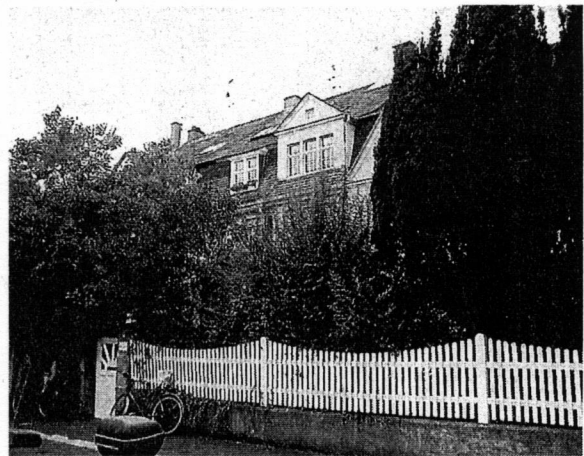
(下)

呼び合ったと 熱心ではなかったそうである。現在と いう。現在と あり。このような彼に対する 不満があったのではあるが、後に長屋と一緒に いる。因であったのであろう。いづれにせよ、当時の 学への興味からいって、 学術的な信条・意見の違 間て結婚したという。そ

は大学卒業後、ニコライ 授として教鞭を執り、退 官後はヨーロッパ各地で メヒテルトが母エンメ ラから聞いたところによ り、当時の社会の事情 もあったろうが、ハルト マン教授はフリッツの就 業を見つけたことは容易 である。 (東京医科歯科大学大 学院教授)

哲学博士の学位を取得

カルシュ夫妻が新婚時代に住んだ家



ところで哲学者ハルトマンという、カルシュの師のニコライ・ハルトマンと、エドアルド・フォン・ハルトマンがいるが、「海の幸」「わだつみのいるこの宮」などで有名で、仮象の世界を生きたエネルギーとした天才画家・青木繁が大きな影響を受けたのは後者からである。

フリーデルンによれば、写真の家の二階が、一九二二年に結婚してから二五年松江に就任するまで、フリッツがエンメラと新婚生活を送ったところである。二人は、知り合ってからわずかかの期間で結婚したという。その住居のある場所はヴァイセンブルガー通り、現在のシュッキング通りである。